



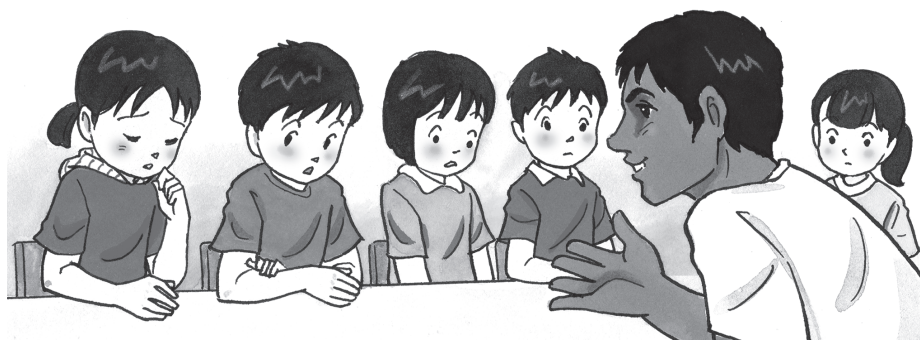
留学生りゅうがくせいとの楽しい時間

わたしのゆめは、しょうらい、いろいろな国の人とふれ合うような仕事をすることです。世界中に友達ともだちができるといいなと思っています。

わたしが通っている学校では、学期ごとに一度、日本に來ている留学生りゅうがくせいの人たちが参加さんかして、ゲームやげきなどで交流会をしています。国も言葉もちがいますが、気持ちを通じたときはとてもうれしくなります。

ところが先日、その交流会で、わたしはこまってしまったのです。

タイから來た留学生りゅうがくせいのパラミーさんは、とても明るい人です。わたしたちのグループに入って、自分の国のことをたくさんお話してくれました。タイはタイ王国といい、日本の約やく一・四倍の広さで、約やく七千万人が住んでいること。また、自然しぜんがゆたかで、一年中半そでですごすことができ、ゴールデンシャワーという花が国の花であること。そして、タイ語の「マイペンライ（気にするな）」という言葉がよく使われ、おおらかな心の人が多いことも教えてくれました。



そうした楽しい話のあとで、パラミーさんから質問しつもんされました。

「日本は季節きせつの変化へんかがあつていいですね。例たとえば、夏や冬にどんな行事があるか教えてください。」

「えーと、おぼんとお正月、それに――。」

とつぜんだったので、わたしたちは、あまり答えられませんでした。あとで、（そういえば、今まで季節きせつの行事について考えたことがなかったなあ。）

と思いました。パラミーさんは、続つづけて言いました。

「知っている民話みんわを教えてくださいませんか。柔道じゅうどうや剣道けんどうのことでもいいです。」

しかし、わたしは、どれについても自信じしんがなく答えられなかったので、下を向いてしまいました。そのとき、わたしは気付きづきました。

（わたしは日本人なのに、日本のことをよく知らないんだ。いろいろな国の人と交流するためには、言葉が話せるだけではだめなんだ。）

わたしは、次の交流会の日に、花を持っていきました。すると、留學生りゅうがくせいの人たちは、花を見るなりすぐにたずねてきました。

「めずらしい花ですね。なんという名前ですか。」

「この花は、なでしこといいます。」



「かわいらしい花ですね。どこにさいているのですか。」

「野山や川原にさきます。日本の秋の七草の一つです。」

留学生と会話がはずみ、とても楽しい時間になりました。

それから、交流会の日には、必ず季節の花を持っていくようにしま

した。日本の花についてもっと知りたくなって、図書館に調べに行く

こともありました。

ある日、お母さんと次の交流会に持っていく花について話している

とき、わたしはこう言いました。

「日本は季節ごとにいろいろな花がさいて、本当にきれいだね。」

わたしは、日本の花にくわしくなることができました。

(文 編集委員会／絵 クリエイティブ・ノア)

？ 考えよう

① 二回目の交流会で「わたし」は、どんなことを考えていたでしょう。

② 「外国の人にしようかいたしたい日本のよさ」について話し合いました。